

令和 4 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立新翔高等学校

校長名： 藤田 勝範

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・キャリア教育や地域との協働を推進し、地域と共に生徒を育てる学校
- ・コミュニケーション能力と自己管理能力を身に付け、優しさと思いやりの心を持った時代の変化に主体的に対応できる生徒
- ・課題対応能力とキャリアプランニング能力があり、社会及び地域社会に求められ貢献できる生徒

学校評価の公表方法

育友会総会並びに学校運営協議会の場で自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせる。また、ホームページを通して広く公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組			評価（3月30日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	・基礎・基本の確実な定着 ・「わかる」を実感できる授業の実践	B	・基礎学力を定着させるための支援と補習の充実	・習熟度別授業の充実	B	主要教科を中心に習熟度別授業を実施している。	基礎・基本の定着に向けて、各教科とも工夫を凝らしながら取り組んでいる。特に障害のある生徒に対しては非常にきめ細やかな指導が行われている。各教科における ICT 機器の活用や研究授業の回数についてはまだまだ不十分なところがあるので、今後の重点課題として取り組んでいく。
			・生徒の学習意欲の向上、ICT 機器の活用等、教員の授業力・指導力の向上	・授業改善のための研究授業、公開授業の実施	B	研究授業等を定期的に行い教員の授業力や指導力の向上を図ったが、まだ十分とは言えない。	
			・障害のある生徒への支援 ・通級指導制度の取組	・黒板の使用法の統一化 ・全員参加の校内研修実施	A	外部講師による現職教育を実施し障害のある生徒への理解を深めた。通級指導も充実している。	
2	・地域との協働の活性化 ・キャリア教育の充実	B	・地域未来づくりプロジェクトチームの立ち上げ	・地域を愛し、その発展・活性化に貢献しようとする生徒の育成を目指した具体的な取組	A	プロジェクトチームを中心に様々な地域イベントに参加し、地域住民との交流を行った。	今年度立ち上げた「地域未来づくりプロジェクトチーム」や観光の授業において積極的に地域との交流を行った、今後更にこの活動を拡大していきたい。キャリアパスポートの活用方法は早急に検討が必要である。
			・産業社会と人間、総合的な探究の時間を通じた職業観・勤労観の育成 ・生徒会活動・部活動の活性化	・職業観・勤労観を高める取組 ・キャリアパスポートを活用した振り返り	B	キャリアパスポートを十分に活用しきれなかった。部活動加入率はまだまだ低い。	
			地域や産業界との連携を図り、体験活動や外部人材による授業等の充実	・地域の人材を積極的に活用した授業の展開 ・将来地域を支える生徒の育成を目指した取組	A	観光の授業において、地元企業と連携した商品開発や販売を行った。	
3	・人権の尊重と社会性の向上 ・健康、安全教育の充実と環境整備	B	・系統、計画立った人権教育の推進 ・外部講師を活用した人権講話の充実	・組織としての一体化した指導	B	人権 LHR や外部人材による人権講演会等に年間を通して継続的に取り組んだ。	人権教育は学校全体で取り組んできたが、理解が不十分な生徒も見られるため指導内容を精査し、より効果的な指導体制を構築する。今年度新たに窓枠に手すりを設置したが、危険箇所があれば迅速に対応する。防災スクール等は地域住民と合同での実施を計画したい。
			新型コロナウイルス感染症対策の徹底と学校設備の定期点検及び整備	マスク着用、手指消毒、換気の徹底と健康観察の継続	A	新型コロナウイルス感染症対策は年間を通じ徹底的に行った。	
			防災スクール、防災避難訓練等を通じた危機対応能力の向上	外部機関と連携した防災スクール、避難訓練の複数回実施	B	防災避難訓練を2回、1学年を対象とした防災スクールの1回実施した。	
4	・社会秩序を重んじる態度の育成 ・いじめ防止の徹底	B	・あいさつ運動の充実 ・全職員による指導体制の確立 ・命の大切さを学ぶ取組の充実	・朝の挨拶運動の実施 ・服装頭髪指導 AS や各種講話の定期的な実施 ・ルールやマナーの指導や教えを受け止める姿勢	B	社会秩序を重んじる態度を育成するための取組は年間を通して継続的に実施した。	規範意識を育て、いじめを防止するための取組は全校体制で取り組んでいるが、3番と同様、指導内容の更なる充実に向けて生徒指導部、生徒支援部を中心に検討する。
			・課題を抱える生徒や支援を要する生徒・不登校生徒に対する教育相談の充実	迅速かつ適切な聴取、面談、ケース会議等の実施や家庭との連携	A	教育相談に関しては SC や SSW と連携しながら、きめ細やかな対応ができています。	
			個人面談の充実	担任の他、養護教諭、教育相談係、SC、SSW の積極的な活用	B	分掌間、担任間の連絡を密に取りながら SC、SSW、JST の力も借りながら相談体制は整っている	

学校関係者評価（2月16日実施）

学校運営委員からの評価は概ね高いものとなっている。地域活動や他の学校にはない特色、体験活動などについて高評価をいただいている一方で、部活動や情報提供に関して一部低い評価をされる方もいた。新宮・東牟婁地方の高校再編に対する関心が高く、期待と不安が入り交じった思いを持っておられる方が多い。期待に応えられる魅力ある学校づくりに向けて努力を続ける必要がある。

その他、具体的には次のような意見が出されている。

- ・コロナ禍でありながら、生徒たちの活発な活動が見られた。
- ・学校統合については両校の話し合いの場も必要。地域が望む学校の活用と、生徒の元気な声が聞こえる学校であってほしい。
- ・再編に向けた具体的な項目の協議がこの1年進んでいないことを危惧している。
- ・生徒の指導に関してもう少し厳しい部分も必要。